

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	都島区
学 校 名	都島小学校
学校長名	北浦 正美

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・都島小学校では、第6学年 63名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

全国の平均正答率と比べ、国語科において+0.1ポイント、算数科において+0.4ポイント、理科において-0.2ポイントとなった。また、平均無回答率は国語科と理科はそれぞれ2.6%、2.7%と大阪市および全国平均と比べ良好な結果となったが、算数科においては4.7%と課題が見られた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、平均正答率が全国平均および大阪市平均を上回った。一方「情報の扱い方に関する事項」において、全国平均および大阪市平均より低い値となった。国語科において「短答式」や「記述式」の問題での誤答が多く、質問されている内容から、何を回答したらよいのかわからない、どういったことを問われているのかわからない児童が多くいたと思われる。今後は、国語科といった教科にとらわれず、教科横断的に言語力の育成を継続して行うとともに、自分の考えをまとめたり、自分の文章のよいところを見つけてたりできる力をつけていく。

〔算数〕

すべての領域において、平均正答率が全国平均および大阪市平均を上回った。毎年の課題であった「データの活用」領域において今年度は大阪市平均および全国平均を上回ることができた。学校全体で総合的読解力を中心に「データの活用」の育成を図ってきた結果がでてきている。

〔理科〕

「エネルギー」を柱とする領域および「粒子」を柱とする領域において課題が見られた。昨年度まで理科を研究教科にし、体験的な学習を積極的に行ってきたが、学習内容が知識に結び付いていないと考えられる。昨年度までの科学的に問題解決する力の育成を図りつつ、個に応じた学習をより一層行っていく。

質問調査より

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目においては肯定的に回答する児童が全国平均および大阪市平均を上回った。また「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の項目においても全国平均および大阪市平均を上回っている。協働的な学びを通して他者の意見を聞き、自分のよいところを把握し、生かしていこうとする取り組みを日ごろの学校生活で行ってきている成果が表れてきている。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」の項目についても肯定的に回答する児童は高い水準を保っているものの、正しい理解のもとすべての児童が最も肯定的に捉えられるように、「いじめ」に対する教育を今後もしっかりと行っていく。

今後の取組(アクションプラン)

引き続き、積極的にデジタルドリルを授業やそれ以外の時間、宿題等で使用し、基礎・基本を中心とした学力の定着を図っていく。一人一台端末の活用を通して、協働的な学びができるようにしていく。また、現代的な諸問題に対応できる資質・能力の育成につなげていく。個に応じた学習を通して、学力の2極化を解消し、全体的なボトムアップを図るとともに自ら学ぶ主体性をもった子どもの育成に取り組んでいく。

様々な体験活動や人との出会い等を通して、一人一人の個性を大切にし違いを理解しようとする心を育てていき、人権教育を基盤とした、社会有用性を高めていくような取り組みを進めていく。